

(は虫類：ウミガメ科)

■ アカウミガメ

Caretta caretta

(平成19年9月7日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：絶滅危惧IB類

種の概要

1) 特徴

アカウミガメは、は虫類のカメ目ウミガメ科に属する大型のウミガメで、直甲長69-103cm、頭部が大きく成体の背面が赤褐色である。

2) 生育環境

海生で太平洋を回遊し、産卵の際には砂や礫のある海岸に上陸する。県内では主に阿南市から海陽町に至る海岸が産卵地として知られるが、希に鳴門市や徳島市にも上陸することがある。全国的にも減少傾向にあるが、徳島県での減少が著しい種である。

生育地と生育状況

県内では蒲生田海岸(阿南市)、坂の浜、木岐白浜(美波町)、大浜海岸(美波町)、亀の子海岸、砂美の浜、小島の浜(牟岐町)、大里海岸(海陽町)で産卵する。蒲生田海岸や大浜海岸では、1960年代にはそれぞれ600回、300回以上の上陸が記録されているが、近年では両方の砂浜を合わせても数十回の上陸しかなく、減少傾向は著しい。

絶滅要因

1) 産卵地の環境悪化

産卵場である砂浜の減少や消失が最大の脅威である。また周辺河川のダム等による土砂の流下量の減少が、浜の砂の堆積量を減少させている。産卵場では、周辺の喧噪、光害、車害などが産卵環境に問題を与えている。

2) 定置網や底引き網による混獲

漁業の際に間違えて捕獲(混獲)することがある。網に入ったままにしておくとも窒息死したり、ヒレに網が絡まるなどの事故が起こりやすい。

3) 海洋汚染

ダイオキシンなどの化学物質(水銀、カドミウム、砒素などの重金属、放射性物質、環境ホルモンなど)による水質の汚染が、ウミガメの生理、行動、生殖などに与える影響が心配される。また、アカウミガメの体内から大量のビニール袋が見つかることがある。これはゴミ

として捨てたビニールを餌のクラゲと間違えて食べてしまった事に起因する。また、砂浜に打ち上げられたゴミは、産卵時の障害となり、孵化した子ガメの帰海を妨げることにもなる。

保全対策

1) 護岸の改良

護岸工事等によって変化した砂浜を復元することが望ましい。

2) 産卵環境の保全

産卵場では、花火やキャンプ、砂浜の照明などを制限して夜間の静寂な環境を保全する。またゴミの除去や、車両の乗り入れを規制を検討すべきである。

3) 混獲の対応

混獲で間違えて捕らえた際はすみやかに放流すること、体を傷つけた際は手当をしてから放流することが望ましい。

4) 産卵・孵化の監視

現状では、上陸したアカウミガメやその卵を食べるために捕獲することは考えられないが、産卵後に方向を間違え、テトラポットに引っかかる事故や孵化した子ガメが無事海に帰ったことを確認するために監視員および巡視員等による監視は必要である。

5) 孵化の支援

産卵した卵が孵化に適さない場所にある場合(海水に浸る、埋め戻しが浅かった、鳥獣による食害)には、卵を移動して人工孵化場で飼育することになる。この場合、日和佐ウミガメ博物館カレッタなど技術と設備のある施設で行うのが望ましい。

6) 県民との協働 アカウミガメの保護は、県と県民が協力して行い、県民や監視員及び巡視員などの報告(情報)を受け、県の適切な指示の元に事業者及び民間団体等との協働体制がとられているので今後もこの体制を維持すべきである。

(市原真一)



アカウミガメ